

**6/8 地元の特産品を育てよう！
東根小学校で岡の台ごぼうの植え**

東根小学校3年生の児童たちが、地域の特産品である「岡の台ごぼう」の植えを学校の畑で行いました。ごぼうの種は、ビニールのような紐に3センチほどの間隔で埋め込まれており、子どもたちは想像していた植えとは違っていただけで、とても驚いていました。

また、児童たちからは「1つの種から何本のごぼうができますか?」「岡の台ごぼうは、ほかのごぼうと何が違うんですか?」などとたくさんの質問があがり、とても興味津々な様子でした。その後、実際に植えを体験。収穫は10月ごろを予定しており、「早く収穫したいな!」と心待ちにしていました。

機械を使った植えは一瞬でした! ▶
やさしく土をかけてあげました▼



**6/16 元気に大きく育てね
鮎貝小学校で鮎の放流体験**

鮎貝小学校5年生の児童たちが、菖蒲地区の最上川河川敷で鮎の放流体験を行いました。

放流体験は、西置賜漁業協同組合白鷹支部(小林正支部長)による放流事業の一環で行われ、児童たちは約2500匹の鮎の稚魚を最上川に放流しました。児童は、川へ放流された稚魚が元気に泳いでいく様子に「大きく育てね」と願いを込めながら見守っていました。

近年、カワウやブラックバスなどによる食害により、鮎の漁獲量が減っていることが大きな問題となっています。今年は、日本一のヤナ場に多くの鮎がかかってくれることを願います。



1匹1匹をやさしく川に放流しました

**6/16 私たちの園を花いっぱい!
町内保育園で植栽活動**

白鷹町土地改良区の主催による花の植栽活動が6月16日にひがしね保育園で、18日にさくらの保育園で行われました。

サルビアやニチニチソウといった色とりどりの花に目を輝かせる園児たち。ひとりひとりにプランターが準備され、お気に入りの花を3株植えました。カップがなかなか取れずに困った様子の園児もいましたが、みんなで協力し合いながら全員がオリジナルの寄せ植えプランターを完成させました。園児たちからは「とても楽しかった」「毎日ちゃんと水を上げます」と感想が聞かれ、これからもお花に愛情をたっぷり注いでいくようです。



なかなかうまくカップが取れず▲
に困った様子の園児
お花を上手に植えられました!▶

TOPICS

トピックス

&

まちのホットな話題
をお届けします！

スポーツ

SPORTS

6/5 私たちが使う水はどこからきているの？ 町内小学校で水利施設見学

白鷹町土地改良区が主催する水利施設見学会が6月5日に東根小学校、6月25日に蚕桑小学校、7月3日に鮎貝小学校で開催されました。学校を出発し、それぞれの地域にある頭首工や揚水機場、排水機場などを見学。中々立ち入ることのない施設を訪れた児童たちは、興味津々な様子でした。

普段、私たちが食べている米や野菜に必要な不可欠な水。その水が広大な田んぼや畑に効率よく行き届くようにと、先人が開削し、長い歴史を経て整備されてきたことを学んだ児童たちは、先人が残してくれた軌跡を忘れないように、真剣なまなざしでメモや写真を撮りながら歴史をたどりました。



◀昔、どうやって水を取り入れていたかを学ぶ児童たち
▼揚水機場でポンプの操作を体験



6/8 養蚕文化を子どもたちに継承 蚕桑小学校で蚕を迎える会

蚕桑小学校では、地域の名前の由来となっている養蚕の学習を行っています。今年も蚕桑地区蚕飼育指導者会の皆さんに教わりながら飼育していきます。

この日は、約2100匹の蚕を学校に迎え入れました。受け取った3年生の児童は、「大事に育てます」と話し、蚕をやさしく飼育室へと運びました。ちょうど3度目の脱皮直前の状態ということで、ほとんど動かない蚕でしたが、その分じっくりと姿を観察することができました。

今後は、くわかけ、ひき拾い、まゆかき、糸取り（操糸）といった工程を児童たちが体験していきます。また、採取した繭は、繭細工や6年生が卒業式に身につける桜のコサージュなどに使用されます。



蚕をじっくり観察。少し早く脱皮した蚕が動いていました